

講義題目 「学問への扉」イノベーション/リーダーシップ入門

担当教員 森 勇介 谷川智之 片山竜二 上向井正裕（工学研究科電気電子情報通信工学）
松行輝昌（共創機構） 抱 厚志

授業の目的と概要

グローバル化やデジタル化などにより激変する現代の世界において、イノベーションは新しい価値を生み出し、それを社会に浸透させる重要な活動です。この授業では、イノベーションに関する知識を学ぶだけではなく、イノベーションを引き起こすリーダーシップについて学びます。このため、イノベーションとリーダーシップにおいて重要な知識や能力を身につけるとともに、イノベーションを実践されてきた各界のリーダーをゲストにお招きし、

みなさん自身がイノベーションを引き起こす人材となるための刺激とヒントを提供します。

また、授業運営の一部を受講生自身が行うことにより実践的なリーダーシップを身に着けます。また、キャンパス外での研修（任意参加）をプロジェクトとしてとらえ、プロジェクトの企画や計画の立て方を学んだり、希望者はこれに参加して実践したりすることもできます。

学習目標

- 1) リーダーシップとは何か説明できる
- 2) イノベーションを引き起こすリーダーシップのポイントを説明できる
- 3) イノベーションにおけるビジネスモデル、経営戦略、法律、テクノロジーの役割について説明できる
- 4) 上記 1) から 3) をふまえて日常生活の中でイノベーションを引き起こすリーダーシップを実践できる

履修条件・受講条件

（受講理由書）

シラバスを熟読して、なぜこの授業を受講したいかを記載した受講理由書を C L E にて提出してください。提出内容は A4 用紙一枚以内(Word ポイント 11)とし、ファイルのヘッダーに提出日 氏名 学番 メールアドレスを表記すること。締切 4 月末日。

履修登録をしていないと CLE にアクセスできないので、早めに履修登録をしてください(KOAN での履修登録した翌日に CLE にアクセスできるようになります)。

授業計画（ゲスト講師の予定により変更の可能性あり）

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 リーダーシップの基礎

第 3 回 集中講義の計画

第 4 回 阪大講義

- 第 5 回 授業運営に関する議論/集中講義の計画
- 第 6 回 ゲスト回練習
- 第 7 回 ゲスト①
- 第 8 回 ゲスト②
- 第 9 回 ゲスト回振り返り/プレゼンテーション準備①
- 第 10 回 ゲスト③
- 第 11 回 リーダーシップに関するプレゼンテーション
- 第 12 回 リーダーシップに関する振り返り
- 第 13 回 イノベーションと経営戦略
- 第 14 回 イノベーションとビジネスモデル 第 15 回 イノベーションとテクノロジー

授業外における学習

(学外研修について) * 当日参加は希望者のみ

日程： 日程： 土日 (1泊2日/日帰り) ※ 感染対策の為、変更する可能性あり

場所： 株式会社パソナグループ様研修施設 (兵庫県淡路島)

参加費・交通費： 無料

2022 年の内容例 (日帰りの場合)

- ・施設見学 (チャレンジファーム、禅坊靖寧など)
- ・講義
- ・プレゼン&ディスカッション (日本語/英語)

教科書・教材

- ・GLP 共通テキスト (授業中に配布/CLE に掲載するリーダーシップに関するテキスト)
- ・その他適宜資料を用意する (CLE 掲載または配布)

参考文献

以下の他は、講義中に指示します。

野村美明ブログ <http://nomurakn.blogspot.jp/> =リーダーシップに関する教材や参考資料を掲載しています。「リーダーシップ」で検索してみてください。

ロナルド・A.ハイフェッツ/ 幸田チャーミン 訳『リーダーシップとは何か!』(産能大学出版部, 1996.) = 共通テキストが引用している本です。阪大図書館所蔵(Leadership Without Easy Answers, 1994)

『リーダー・パワー』ジョセフ・S・ナイ (日本経済新聞出版社 2008 年) (原著 Joseph S. Nye, Jr., The Powers to Lead, Oxford, 2008) = 共通テキストが引用している本です。

シャロン・ダロツ・パークス/中瀬英樹訳『リーダーシップは教えられる』(ランダムハウス講談社、2007 年) (原著 Sharon Daloz Parks, Leadership Can Be Taught, Harvard Business School)

Press, 2005).

平田オリザ・蓮行『コミュニケーション力を引き出す』（PHP 研究所、2009 年）

堀公俊『ワークショップ入門』日経文庫 2008 年。プログラムデザインやファシリテーションスキルが学べます。

成績評価

提出シート（振り返りシート、自己・相互評価シート）40%、レポート類（受講理由書、学期末レポート）30%、平常点(役割分担等) 30%

・受講理由書と学期末レポート（総合振り返り）の2つを提出することによって、受講前後で自分自身にどのような変化が生じたのかを実感できます。

・無断欠席した者は評価の対象としません。無断で遅刻・早退した場合も同様とします。

特記事項

この授業は、大学院国際公共政策研究科グローバルリーダーシップ・プログラム（GLP）の協力のもとに開講します。GLP で開講する科目を続けて受講することで、リーダーシップをよりよく理解し、身につけることができます。秋冬学期水曜 6 限の「リーダーシップを考える」では、この授業で学んだ考え方やスキルをより深く学べます。また、秋冬学期木曜 4 限の「経営者と学ぶリーダーシップ」では、ビジネスにおけるリーダーシップを学びます。

受講生へのメッセージ

授業目的に共感し、対話型授業と協働作業に積極的に参加する学生を望みます。

※提出物に関しては、個人が特定できない形で、授業の改善や研究のために引用したり、ゲストに共有させていただく場合があります。